日腎会誌 2004；**46**(8)：747-780.

日本腎臓学会腎病理診断標準化検討委員会中間報告

腎生検組織標本取り扱い指針案

執筆者一覧

日本腎臓学会　渉外・企画委員会
小委員会「腎病理診断標準化検討委員会」委員
委 員 長：槇野博史(岡山大学大学院医歯学総合研究科腎・免疫・内分泌代謝内科学)
副委員長：重松秀一(信州大学大学院医学研究科病理系病理学)
委　員：
病理
城　謙輔(国立病院機構千葉東病院臨床研究センター免疫病理研究部)
田口　尚(長崎大学医学部循環浄化医学病態病理学)
内科
斉藤喬雄(福岡大学医学部第 4 内科)
西　慎一(新潟大学医歯学総合病院血液浄化療法部)
松尾清一(名古屋大学大学院医学研究科免疫応答内科学)
横山　仁(金沢大学医学部附属病院血液浄化療法部)
小児科
服部元史(東京女子医科大学腎臓病総合医療センター腎臓小児科)
本田雅敬(東京都立八王子小児病院)
吉川徳茂(和歌山県立医科大学小児科学)

まえがき

わが国の慢性透析患者数は年々増加の一途をたどっており，腎不全の進行防止は社会的な課題である。総透析患者数の約半数の原疾患は慢性糸球体腎炎であり，また，原疾患不明のまま透析導入に至る場合も少なくないのが現状である。原疾患を診断し早期に適切な治療を行うことが重要であるが，臨床の現場では必ずしも腎生検情報が十分に活かされていないと考えられる。

このような理由から，平成 14 年 11 月，日本腎臓学会において渉外・企画委員会のなかに腎病理診断標準化検討委員会を立ち上げた。まず各委員のメーリングリストにより委員会のルール作り，検討テーマの選択，問題提起から始め，腎生検の適応などのテーマにつき意見交換を行った。次に下記の記録に示したようなアンケート調査を評議員に行い，委員会，中間報告会を開催した。平成 16 年日本腎臓学会学術総会の中間報告でいただいた会員の意見を参考にして一部訂正を行った。今回，委員会中間報告として検討内容の骨子を学会誌に掲載することで，学会員の皆様より広く忌憚のないご意見を日本腎臓学会本委員会宛て(office@jsn.or.jp)にいただいて，より良い内容に改定したいと考えている。

今回の中間報告と会員からのご意見をもとに，最終的には「腎生検組織標本取り扱い指針」として先に刊行された「腎生検ガイドブック」と同様な体裁で発刊予定である。また今後の課題として，腎病理診断標準化の全国普及のための腎病理コンサルテーションシステムの確立を視野に入れ検討していく予定である。

槇野博史

アンケート調査・委員会・中間報告会開催記録

【アンケート調査】

平成 15 年 6 月 6 日：評議員に対する腎生検病理診断に関するアンケート調査

平成 16 年 5 月 27 日：学会員に対するアンケート調査

【腎病理診断標準化検討委員会】

第 1 回　平成 15 年 5 月 23 日(東京)

第 2 回　平成 15 年 10 月 24 日(名古屋)

第 3 回　平成 16 年 4 月 29 日(東京)

【日本腎臓学会学術総会における中間報告】

第 47 回　平成 16 年度会長　浅野　泰(自治医科大学)

腎病理診断標準化検討委員会報告　平成 16 年 5 月 27 日(宇都宮)